

ふよっこだより 〈「うれしのタイム」について〉

本園の教育活動は、大きく分けて「うれしのタイム」と「学級・学年の活動」があります。「うれしのタイム」は、一人一人の子供が好きな遊びに主体的に取り組みながら、自分の実現したいことに熱中したり、友達と様々なやりとりをしたりして遊びを創り出していく場です。本園では、この「うれしのタイム」を「学級・学年の活動」と同様、とても大切な活動であると考えています。

本園の「うれしのタイム」で特に大切にしていることは、次の3点です。

- ①一人一人が遊ぶ姿、遊び込む姿を支えること
気になる友達や気の合う友達と、あるいは先生と、「うれしのタイム」で好きな遊びにじっくり取り組む姿を大切にしながら、一人一人の子供の育ちを支えていきたいと考えています。
- ②一人一人が遊びたくなる環境を子供と共に創り出すこと
附属幼稚園には、広い園庭があります。運動場はもちろん、3歳児棟の南園庭、クスノキや砂場のある西側の園庭、遊戯室北側のどんぐり広場、各園舎の間の中庭・・・子供たちが、お気に入りの場所で、したい遊びをする時間や空間を大事にしています。
- ③様々な「ひと」「もの」「こと」との関わりの場であること
園内の様々な「もの」を遊びに取り入れていく面白さや、「ひと」や「もの」と出会う過程での様々な出来事（「こと」）を遊びにつなげていく楽しさが、子供たちの遊びを広げたり深めたりします。同年齢はもちろんのこと、異年齢児とも関わりながら遊ぶことのできる機会となっています。

「うれしのタイム」での遊びを例にすると、砂場での水遊びや泥団子作りを通して、「水は高い所から低い所に流れる」「土は水に濡れると色が変わる」「土が水に濡れると、とろとろになる」といった発見や気づきをすることは、「知識」に該当します。「トイを使って水を目的の場所に流す」「団子が壊れないように作る」工夫をしていくことは、「思考力」に関することです。「もっと水を勢いよく流したい」「ぴかぴかのお団子をつくりたい」という意欲や「団子の完成に向けて粘り強く取り組む」姿勢は、「学びに向かう力」と言えるでしょう。これらの力を一体的に育むことは、以前から本園が「うれしのタイム」の中で意識して取り組んできたことです。

一人一人の子供の育ちの場である「うれしのタイム」を充実したものにするため、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。